

各部部長及び  
若手アカデミー報告資料

第一部報告  
第192回総会  
2024年10月21日、22日

第一部役員  
部 長：吉田 文  
副部長：大久保規子  
幹 事：小田中直樹  
幹 事：西山慶彦

# 第一部の組織

## 分野別委員会（10）・分科会（59）

| 分野別委員会     | 分科会数 |
|------------|------|
| 言語・文学委員会   | 3    |
| 哲学委員会      | 4    |
| 心理学・教育学委員会 | 4    |
| 社会学委員会     | 6    |
| 史学委員会      | 9    |
| 地域研究委員会    | 7    |
| 法学委員会      | 10   |
| 政治学委員会     | 5    |
| 経済学委員会     | 6    |
| 経営学委員会     | 3    |
| 第一部直接統括    | 2    |

※第25期の第一部における分科会数は79。

# 第一部の運営体制

- 部会：年 3 回を予定
- 役員打ち合わせ：随時
- 拡大役員会：部会の間に 1 ～ 2 回、必要に応じて開催（部役員 + 分野別委員長）
- 第一部が直接統括する分科会
  - 国際協力分科会
  - 総合ジェンダー分科会



# 第26期の方針

- ① 会員任命問題の解決をめざして四役、幹事会、第二部、第三部との強固な連携のもとで粘り強い働きかけを継続します。
- ② 改正科学技術・イノベーション基本法、第7期科学技術・イノベーション基本計画のもとでの人文・社会科学の振興策についての審議・具体化を進めます。
- ③ 「日本学術会議のより良い役割発揮」をめぐる議論について、部の特性を生かしながら積極的に参画します。
- ④ 部における分野別委員会・分科会体制及び科学的助言活動のあり方についての検討を進めます。

# 2024年4月総会以降の活動

- 「意思の表出」に関わる部及び分野別委員会による査読等の実施
- 夏季部会（2024年8月1日、東北大学）におけるシンポジウム「超少子高齢社会と人文社会科学の役割」の開催
- 多彩なシンポジウム等の開催（2024年4月以降、公開シンポジウムを8件開催済。10月中に、更に3件開催予定。）

# 公開シンポジウム等（2024年4月-2024年10月分）

- 5/18 公開シンポジウム「公務員制度の変容：資源制約時代における応答要求への対応」（政治学委員会 人口減少下の行政・地方自治分科会）
- 6/22 公開シンポジウム 第29回史料保存利用問題シンポジウム「裁判記録の現状と課題—保存と公開体制の確立を—」（史学委員会、同 アーカイブズと社会に関する分科会、日本歴史学協会）
- 7/20 公開シンポジウム「婚姻は、いかなる意味で、どこまで『契約』なのか—歴史・比較・展望—」（法学委員会）

# 公開シンポジウム等（2024年4月-2024年10月分）

- 7/27      公開シンポジウム「アジアにおける民主主義の後退と政治的分極化」（政治学委員会 民主主義の深化と退行に関する比較政治分科会、JSPS課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業『偽情報と政治的分断に関する東アジア諸国を中心とした包括的研究』）
- 7/28      公開シンポジウム「不登校に関する政策動向」  
（心理学・教育学委員会 不登校現象と学校づくり分科会）
- 9/14,15    公開シンポジウム「フューチャー・デザイン2024」  
（経済学委員会・環境学委員会合同フューチャー・デザイン分科会、一般財団法人キヤノングローバル戦略研究所）

## 公開シンポジウム等（2024年4月-2024年10月分）

- 9/23 公開シンポジウム「心理学国家資格『公認心理師』の社会的役割と活動の実際」（心理学・教育学委員会・社会学委員会・法学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同心身の健康・適応に対する心理学的支援分科会）
- 10/5 公開シンポジウム「迷走する国際秩序と人道危機」（政治学委員会 紛争下の人道的危機に関する国際政治分科会）

# 公開シンポジウム等（2024年4月-2024年10月分）

（以下は、今後の開催予定）

- 10/26 公開シンポジウム「脳組織を人工的につくることの意味を考える  
～科学者と哲学・倫理学・宗教学者の対話から～」（哲学委員会）
- 10/27 公開シンポジウム「歴史教育シンポジウム 歴史総合・日本史探究  
・世界史探求の史資料を使う」（史学委員会、同 教育現場・社会  
における歴史実践と歴史認識に関する分科会、日本歴史学協会）
- 10/27 公開シンポジウム「国際シンポジウム：LGBTQの権利保障をめぐる  
法整備の現状と課題」（法学委員会 社会と教育におけるLGBTI  
の権利保障分科会、科学者委員会 ジェンダー・エクイティ分科会、  
法学委員会 ジェンダー法分科会）

# 第二部活動報告

令和 6（2024）年 4 月～令和 6（2024）年 9 月

## 第二部役員

部 長：神田 玲子

副部長：尾崎 紀夫

幹 事：奥野 恭史

幹 事：堀 正敏

## 組織及び活動の概要

第二部は会員68名、部および下記9委員会※<sup>1</sup>のもとに81分科会と1つの小委員会（R06.09.30時点）が設けられており、各分野に特徴ある活発な活動を展開している。

| 分野別委員会                                | 委員長    | 分科会数                 |
|---------------------------------------|--------|----------------------|
| 部附置分科会                                |        |                      |
| 第二部生命科学系学術雑誌問題検討分科会                   | 小林 武彦  | 1                    |
| 第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会※ <sup>2</sup> | 樋田 京子  | 1                    |
| 基礎生物学委員会                              | 小林 武彦  | 13                   |
| 統合生物学委員会                              | 北島 薫   | 7                    |
| 農学委員会                                 | 中嶋 康博  | 12                   |
| 食料科学委員会                               | 高山 弘太郎 | 10                   |
| 基礎医学委員会                               | 五十嵐 和彦 | 8                    |
| 臨床医学委員会                               | 山本 晴子  | 13(1) ※ <sup>3</sup> |
| 健康・生活科学委員会                            | 西村 ユミ  | 7                    |
| 歯学委員会                                 | 村上 伸也  | 3                    |
| 薬学委員会                                 | 奥田 真弘  | 6                    |

※<sup>1</sup> 環境学委員会は分野別委員会ではあるが、融合領域分野として第一部～第三部の会員から構成されているため、9委員会には含めていない。

※<sup>2</sup> 第370回幹事会（令和6年8月30日）承認

※<sup>3</sup> （ ）は小委員会の設置数



## 第二部の意思決定 ～第二部会等の開催～

部会は、総会時ならびにメール審議形式で開催している。役員会は幹事会の開催日に合わせて行われており、部の運営方針を決定している。また補欠会員の選考や旅費執行など、重要な方針決定の際には、分野別委員会委員長に事前相談・確認をいただいている。

◆第二部部会：第3回（令和6年4月23日）

議題：「日本学術会議のあり方に関する検討」及び「アクションプラン」に関する議論、委員会/分科会等の活動報告、夏季部会、学協会連携、など

◆第二部部会：第4回（メール審議）

（掲示板意見交換:令和6年6月5-12日、メール議決:令和6年6月13-15日）

議題：公開シンポジウム開催提案書の承認について

◆第二部部会：第5回（夏季部会：令和6年8月8-9日）

議題：部附置分科会の設置に関する議論、委員会/分科会等の活動報告等、「日本学術会議のあり方に関する検討」、学協会連携、意思の表出に関する議論

## 第二部が直接統括する分科会（追加）

---

### ◆ 第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会

#### ● 設置目的：

生命科学分野では、多くの大学において、女子学生の割合は比較的高いにも関わらず、女性教員は少ない。また、企業や公的機関における女性研究者の割合も低く、上位職ほど女性比率が低くなっている。

また学会の大会における女性の学生会員の発表比率は高いにも関わらず、企業に就職すると退会する女性が多い。また理事等の役職に就いている女性会員は極端に少ない。

大学で教員のポストに就いている外国人の研究者が学協会の理事等になることも希である。そこで、本分科会では、生命科学分野の大学・研究機関・学協会におけるジェンダー・ダイバーシティに関わる現状を把握し、課題解決のための方策について検討する。

#### ● 審議事項：

1. 大学・研究機関・学協会における生命科学分野の女性活躍推進のための方策の検討
2. 生命科学分野におけるダイバーシティ推進に向けた方策の検討

## 科学的助言等の作成

---

- テーマ：国民の健康維持・増進に資する食品制度  
食料科学委員会、農学委員会、基礎医学委員会、健康・生活科学委員会、薬学委員会  
（食の安全分科会、獣医学分科会、農芸化学分科会、毒性学分科会、  
パブリックヘルス科学分科会）
- テーマ：脳科学研究とその臨床応用に関わる倫理的課題  
基礎医学委員会、臨床医学委員会  
（神経科学分科会、脳とこころ分科会、移植・再生医療分科会）

## シンポジウム等（開催済）（令和6年4月～令和6年9月）

第二部においては、令和6年4月から令和6年9月の期間中、7件の公開シンポジウムを開催した。

| 開催日              | 名 称                                                      | 開催場所                               | 委員会・分科会                                                                     |
|------------------|----------------------------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 令和6年<br>4月27日（土） | 『紅麴サブリ食品事故』から考える ～サ<br>プリメント、機能性表示食品とは？～                 | オンライン開催                            | 食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科<br>会、食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分<br>科会                      |
| 5月11日（土）         | 動物の繁殖の研究ってこんなに広がる<br>の！？                                 | オンライン開催                            | 食料科学委員会畜産学分科会                                                               |
| 5月25日（土）         | 食糧科学と機能性に関する日本栄養・<br>食糧学会、韓国食品栄養科学会、日<br>本学術会議合同国際シンポジウム | 中村学園大学1号館10<br>階大講義室（ハイブリッド<br>開催） | 食料科学委員会・農学委員会・健康・生活科学委員<br>会合同IUNS分科会                                       |
| 7月20日（土）         | 歯学から発信する再生医療の将来展望                                        | 東京大学安田講堂                           | 歯学委員会病態系歯学分科会、歯学委員会臨床<br>系歯学分科会、歯学委員会基礎系歯学分科会                               |
| 8月8日（木）          | ワンヘルス ～未来を創る世代とともに考<br>える～                               | 岡山大学共育共創コモンズ<br>（ハイブリッド開催）         | 第二部                                                                         |
| 8月29日（木）         | スタートアップが繋げる農学と農業 ～望<br>ましい共創のあり方～                        | 日本学術会議講堂（ハイブ<br>リッド開催）             | 食料科学委員会、農学委員会                                                               |
| 9月19日（木）         | 農業デジタルツインの現状と展望                                          | 大阪府立国際会議場                          | 食料科学委員会・農学委員会合同CIGR分科会、<br>食料科学委員会・農学委員会合同農業情報システ<br>ム学分科会、農学委員会農業生産環境工学分科会 |



主催：日本学術会議食料科学委員会・基礎医学委員会合同開催学術分科会  
食料科学委員会・医学委員会合同食料学分科会

## 日本学術会議 公開シンポジウム

### 「紅麹サブリ食品事故」から考える サプリメント、機能性表示 食品とは？

**4/27**  
17:30-19:30  
参加無料

シンポジウム詳細: <https://www.sqj.go.jp/ai/event/2024/365-e-047.html>  
シンポジウム事務局: [sqj-fou@vetmed.hokudai.ac.jp](mailto:sqj-fou@vetmed.hokudai.ac.jp)

17:30 開会の挨拶 堀 正敏 (日本学術会議第二部会員、東京大学・教授)  
17:35 機能性表示食品のあり方/特定保健用食品から機能性表示食品へ  
17:40 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
17:55 食品に用いられる栄養補助食品の自給管理の現状  
18:00 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、東京大学・教授)  
18:05 自由参加の質問と健康被害にある消費者  
18:10 スーパーマーケットの課題  
18:40 リスク管理とコミュニケーションの重要性  
18:50 報告 高野子 (日本学術会議諮問委員会、株式会社リテラジャ/代表取締役)  
18:50 報告 モレラージュ 高野子  
19:30 閉会の挨拶 石塚 真由美 (日本学術会議諮問委員会、北海道大学・教授)

参加URL: <https://zoom.us/j/84425330135>  
Web会議ID: 844 2533 0135 / パスワード: 770432 (※事前登録不要)

## SRD公開オンラインシンポジウム

### 動物の繁殖の研究って こんなに広がるの!?

2024年 5月11日(土) 13:00-15:20  
Zoomウェビナーによる開催

#### セミナー内容

- 山本 ゆき 先生 (東京農工大学)  
「動物の繁殖学研究と動物園への広がり:  
希少動物の生態域外保全と繁殖学研究」
- 若山 照彦 先生 (山梨大学)  
「哺乳類の宇宙繁殖の可能性と問題点  
～人類は適度な宇宙環境で繁殖できるのだろうか～」
- 長嶋 比呂志 先生 (明治大学)  
「動物の繁殖学研究と医療への広がり」

#### 参加方法

- 事前登録が必要 (定員500名)。
- 登録締め切り: 5月8日(水)
- 登録用サイトから参加登録をお願いします。
- 登録された方には開催前日までにZoomのURLをお送り致します。

お問合せ: SRD事務局 [srdoffice@reproduction.jp](mailto:srdoffice@reproduction.jp)

皆様のご参加をお待ちしております!

主催: 公益社団法人日本繁殖生物学会  
日本学術会議食料科学委員会食料学分科会  
共催: 日本畜産アカデミー  
後援: 公益社団法人日本畜産学会

## 日本栄養・食糧学会 第78回大会

### 日本栄養・食糧学会・韓国食品栄養科学会・日本学術会議食料学分科会 JSNFS, KFN and SCJ Joint Symposium

#### 食品科学・機能・加工の潮流

### Trends in Food Science, Function and Processing

大会会場: 広島県立広島健康科学センター  
期 間: 2024年5月24日(土) 9:00～16:00  
場 所: 広島県立広島健康科学センター  
Zoomリンク: <https://zoom.us/jnfs2024> / QRコード

Moderator: **Kiyoko Nakagawa** (Tokai University) / Chair of International Academic Cooperative Committee, Japan Society of Nutrition and Food Science (JSNFS)  
Chair: **Sung-Soo Park** (Jagj National University) / Chair of International Cooperative Committee, Korean Society of Food Science and Nutrition (KSNF)  
Chair: **Asako Takahashi** (Hajj University) / Chair of JNFS Committee, Science Council of Japan (SCJ)  
Chair: **Rakko Muroda** (Shizuoka University) / JNFS Committee member, SCJ

Opening Remarks: **Mitsuo Yoshida** (The Jikei University Kashiwa Hospital / President of JSNFS)  
Chair: **Daeg-Ryun Kim** (Kangsan National University / President of KSNF)  
Chair: **Jongbin Lim** (Department of Food Science, Jeju National University)  
Chair: **Chang-Ho Lee** (Department of Food Science and Biotechnology, Sungkyunkwan University)  
Chair: **Yoon-Ho Lee** (Department of Food Science and Biotechnology, Sungkyunkwan University)  
Chair: **Yoon-Ho Lee** (Department of Food Science and Biotechnology, Sungkyunkwan University)

Abstracts: **Chang-Ho Lee** (Department of Food Science and Biotechnology, Sungkyunkwan University)  
Abstracts: **Chang-Ho Lee** (Department of Food Science and Biotechnology, Sungkyunkwan University)  
Abstracts: **Chang-Ho Lee** (Department of Food Science and Biotechnology, Sungkyunkwan University)

Closing Remarks: **Kiyoko Nakagawa** (Tokai University / Vice President of JSNFS)

## 日本学術会議公開シンポジウム

### 「歯学から発信する再生医療の将来展望」

主 催: 日本学術会議歯学委員会 歯学分科会、歯学医歯学分科会、基礎歯学分科会  
共 催: 日本口腔科学会  
後 援: 先端歯学国際教育ネットワーク、日本歯学協会協議会

令和6年(2024年) 東京大学 安田講堂 1階大講堂  
7月20日(土) (東京新聞文芸版本欄7-3-1)  
19:00～20:30

次世代の医療として注目を集めている再生医療の分野において、歯学が果たして果たした役割を再考すると共に、再生医療に基づく口腔機能の維持・向上、其のWell-beingの観点から、歯に特有に貢献できるものについて整理し、今後歯への発展等につき発信する機会とした。

#### プログラム

開会: 山本 啓司 (日本学術会議第二部会員、東京歯科大学大学院歯学部総合研究科教授)

講演  
座長: 山本 啓司 (日本学術会議第二部会員、東京歯科大学教授)  
座長: 山本 啓司 (日本学術会議第二部会員、東京歯科大学教授)

『歯科再生医療がもたらす口腔医療の未来』  
主 催: 東京大学大学院歯学部研究科教授  
『歯科再生医療がもたらす口腔医療の未来』  
主 催: 東京大学大学院歯学部研究科教授

『歯科再生医療がもたらす口腔医療の未来』  
主 催: 東京大学大学院歯学部研究科教授  
『歯科再生医療がもたらす口腔医療の未来』  
主 催: 東京大学大学院歯学部研究科教授

閉会: 山本 啓司 (日本学術会議第二部会員、東京歯科大学大学院歯学部総合研究科教授)

## 公開シンポジウム ワンヘルス

### ～未来を創る世代とともに考える～

日 時: 2024年8月8日(木) 13:00～15:30  
場 所: 岡山大学共創共働コモンズ/オンライン

本シンポジウムは、岡山大学のオープンキャンパスのイベントの一環として行います。

13:00 開会の挨拶  
13:10 報告 堀 正敏 (日本学術会議第二部会員、東京大学・教授)  
13:20 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
13:30 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
13:40 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
13:50 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
14:00 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
14:10 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
14:20 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
14:30 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
14:40 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
14:50 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
15:00 閉会の挨拶

参加URL: <https://zoom.us/j/84425330135>  
Web会議ID: 844 2533 0135 / パスワード: 770432 (※事前登録不要)

## 公開シンポジウム

### スタートアップが繋げる農業と農業

#### ～望ましい共創のあり方～

日 時: 令和6年8月29日(土) 13:30～16:50  
場 所: 日本学術会議講堂 (東京都港区六本木7-22-34) / オンライン開催

13:30 開会の挨拶  
13:35 報告 堀 正敏 (日本学術会議第二部会員、東京大学・教授)  
13:40 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
13:50 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
14:00 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
14:10 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
14:20 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
14:30 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
14:40 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
14:50 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
15:00 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
15:10 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
15:20 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
15:30 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
15:40 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
15:50 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
16:00 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
16:10 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
16:20 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
16:30 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
16:40 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
16:50 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)

## 日本学術会議公開シンポジウム

### 農業デジタルツインの現状と展望

日 時: 令和6年9月19日(土) 13:30～17:30  
場 所: グランキューブ大阪 (大阪府立国際会議場) 特別会議室(12F)  
大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51

13:30 開会の挨拶  
13:40 報告 堀 正敏 (日本学術会議第二部会員、東京大学・教授)  
13:50 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
14:00 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
14:10 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
14:20 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
14:30 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
14:40 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
14:50 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
15:00 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
15:10 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
15:20 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
15:30 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
15:40 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
15:50 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
16:00 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
16:10 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
16:20 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
16:30 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
16:40 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
16:50 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
17:00 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
17:10 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
17:20 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)  
17:30 報告 日食美 (日本学術会議諮問委員会、日本大学・教授)

# 公開シンポジウム「ワンヘルス ～未来を創る世代とともに考える～」(1)

令和元年以来中止していた夏季部会の地域開催を再開。ホストの岡山大学と共同で公開シンポジウムを開催。

公開シンポジウム **ワンヘルス**  
～未来を創る世代とともに考える～

日時：2024年8月8日(木) 13:00～15:30  
場所：岡山大学共創コモンズ/オンライン  
本シンポジウムは、岡山大学のオープンキャンパスのイベントの一環として行います。



こちらのQRコード  
からも参加可能です。



13:00 開会の挨拶  
磯 博康 (日本学術会議副会長、国立国際医療研究センター・センター長)  
那須 保友 (岡山大学学長、日本学術会議連合会員)

13:10 気候変動下で水災害と食糧問題に立ち向かうには  
辻本 久美子 (岡山大学・准教授)

13:25 環境に配慮したスマート化で農業は強くなる  
高山 弘太郎 (日本学術会議会員、豊橋技術科学大学/愛媛大学・教授)

13:40 出産・子育ての希望をかなえるワンヘルス社会へ  
牧 尉太 (岡山大学病院・講師)

13:55 人生100年時代、ペットの寿命も延びるのか  
水野 理介 (岡山理科大学・教授)

14:10 日本に「障壁のない世界」を作る  
片岡 祐子 (岡山大学病院・准教授)

14:25 新たに出現した人獣共通感染症に挑む  
米田 美佐子 (日本学術会議会員、東京大学・特任教授)

14:45 総合討論：講演者及び学生パネリスト3名によるパネルディスカッション  
<モデレーター>  
狩野 光伸 (日本学術会議会員、岡山大学副理事)

15:30 閉会の挨拶  
尾崎 紀夫 (日本学術会議第二部副部長、名古屋大学・特任教授)

主催：日本学術会議第二部・岡山大学  
後援：日本生命科学アカデミー、公益財団法人日本学術協励財団  
協力：おかやま地域発展協議体おかやまSDGs研究会  
参加URL： <https://zoom.us/j/94425390139?pwd=9CtRbnhFWlI2vz3wq8rkJiCDsgbnh6.1>  
ウェビナーID：944 2539 0139・パスコード：770432 (※事前登録不要)

位置づけ：岡山大学のオープンキャンパスのイベントの一環として実施。岡山地域のSDGsやESD（持続可能な開発のための教育）の取り組みとも連携

講演：気候変動、食糧問題、少子・高齢化、バリアフリー、人獣共通感染症など

パネルディスカッション：科学の力で「ワンヘルス」実現のためにできることを未来を創る次世代と一緒に議論。

成果：対面約80人、オンライン約150人の参加を得て、次世代育成や地域における学術振興に対して日本学術会議が行える貢献を検討するにあたり、貴重な情報を得た。



## 公開シンポジウム「ワンヘルス ～未来を創る世代とともに考える～」(2)



磯副会長



那須学長



辻本先生



高山先生



牧先生



水野先生



片岡先生



米田先生



狩野先生がファシリテータを務め、学生3名の問いかけに講演者が応える形で、議論が行われた

青：学術会議  
赤：岡山大学  
緑：アカデミア

## 公開シンポジウム等開催に係る国内学協会との連携実績

---

- 公開シンポジウムの共同主催・共催・後援等の主な連携先

公益社団法人日本繁殖生物学会、畜産学アカデミー、公益社団法人日本畜産学会  
公益社団法人日本栄養・食糧学会（JSNFS）、特定非営利活動法人日本口腔科学会、  
一般社団法人日本歯学系学会協議会、日本農学アカデミー、日本農業工学会、  
日本生物環境工学会

- 市民公開講座の共同主催・共催・後援等の主な連携先（二部関連のみ）

一般社団法人日本神経精神薬理学会、日本昆虫科学連合



## 第二部関連の学協会連合との連携

---

### ● 第二部と関連のある学協会連合は以下のとおり

一般社団法人男女共同参画学協会連絡会、生物科学学会連合、日本プロテオーム学会、自然史学会連合、一般社団法人 日本農学会、農業経済学会関連学会協議会、公益財団法人 農学会、日本農学アカデミー、水産・海洋科学研究連絡協議会、公益社団法人 日本水産学会、一般社団法人 日本医学会連合、日本脳科学関連学会連合、全国公衆衛生関連学協会連絡協議会、日本スポーツ体育健康科学学術連合、生活科学系コンソーシアム、一般社団法人 日本看護系学会協議会、一般社団法人 日本歯科医学会連合、NPO法人 日本口腔科学会、一般社団法人 日本歯学系学会協議会、公益社団法人 日本薬学会、一般社団法人 日本薬系学会連合

## 第三部報告

令和6年4月～令和6年9月

第三部部会 4/23(前回総会中), 8/1-2

第三部拡大役員会 5/31, 6/28\*, 9/30 \* 分野別委員会委員長も参加

|     |    |    |
|-----|----|----|
| 部長  | 沖  | 大幹 |
| 副部長 | 北川 | 尚美 |
| 幹事  | 奥村 | 幸子 |
| 幹事  | 関谷 | 毅  |

# 1-1. 第三部における分野別委員会

|             | 委員長   | 副委員長   |
|-------------|-------|--------|
| 環境学委員会 *    | 森口 祐一 | 池邊 このみ |
| 数理科学委員会     | 齋藤 政彦 | 伊藤 由佳理 |
| 物理学委員会      | 腰原 伸也 | 櫻井 博儀  |
| 地球惑星科学委員会   | 佐竹 健治 | 小口 高   |
| 情報学委員会      | 下條 真司 | 高田 広章  |
| 化学委員会       | 岡本 裕巳 | 三浦 佳子  |
| 総合工学委員会     | 玉田 薫  | 宮崎 恵子  |
| 機械工学委員会     | 高田 保之 | 佐田 豊   |
| 電気電子工学委員会   | 三瓶 政一 | 大橋 弘美  |
| 土木工学・建築学委員会 | 竹内 徹  | 佐々木 葉  |
| 材料工学委員会     | 岸本 康夫 | 尾崎 由紀子 |

\* 第一部～第三部合同

## 1-2. 第三部附置分科会

理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会

委員長 玉田 薫

副委員長 堀 利栄

参考 第26期の第三部も深く関わる課題別委員会

「防災減災学術連携委員会」

「フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会」

「循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会」

「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」

## 2. 令和6年4月～令和6年9月の活動(1/4)

### 部会ならびに拡大役員会での議論

(部会 4/23, 8/1-2; 拡大役員会 5/31, 6/28\*, 9/30  
\* 分野別委員会委員長も参加)

### ○分野別委員会の設置ならびに活動状況に関する確認

- 各分野別委員会の活動を部会にて報告
- 分野別委員会の下に75の分科会※、60の小委員会が設置され、活動を開始  
(参考資料A)
- ※令和6年4月以降に設置が認められた分科会は1件
- 会員間の情報共有の円滑化を推進し、分科会活動を精査・支援

### ○公開シンポジウムの開催

- 参考資料B

### ○「アクションプラン」の検討状況の共有と速やかな実行に向けた議論

- 第三部から予定されている提言等の状況確認
- 科学的助言機能強化のための見直し(第三部における査読手順の改訂)
- 関連学協会と連携を深める方法等に関する意見交換

## 2. 令和6年4月～令和6年9月の活動(2/4)

### 部会ならびに拡大役員会での議論

(部会 4/23, 8/1-2; 拡大役員会 5/31, 6/28\*, 9/30  
\* 分野別委員会委員長も参加)

#### ○「日本学術会議のあり方」に関する議論

→政府有識者懇談会での議論の状況等を踏まえて継続的に意見交換

#### ○2024年度予算執行方針に基づく予算執行状況の確認

→2024年度予算執行方針の発出とその後の予算執行状況の検討・確認

#### ○第三部夏季部会の企画等に関する検討、意見交換

→日程(8月1～2日)、開催地(大阪)、公開シンポジウムの内容を決定



## 2. 令和6年4月～令和6年9月の活動(3/4)

公開シンポジウム報告:

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/topics/2024/08/22002>

### 公開シンポジウム / ～研究者になって世界を駆け巡ろう～

主催: 日本学術会議第三部会、日本学術会議近畿地区会議、大阪大学

日時: 令和6年8月1日(木) 13:00～17:30

場所: 大阪大学中之島センター10階(佐治敬三メモリアルホール)・ハイブリッド開催

報告: 世界が直面している気候変動、エネルギー枯渇、貧困などの問題に対して世界を駆け巡り解決に取り組んでいる全国の研究者が一堂に会し、その思いと、思い描く未来を紹介し共有する趣旨で開催。全国の学生に広く参加を募り、現地参加・オンライン参加のハイブリッドで開催し、約150名の学生を含む200名ほどの参加者があった。

5名の先生方に講演いただいた後、パネルディスカッションで現地参加した学生からの多くの率直な質問・疑問に答えていただいた。さらに、第三部会員と参加学生がグループに分かれ、グループディスカッションを実施。パネルディスカッション同様に具体的かつ率直な疑問、質問が学生から投げかけられ、本シンポジウムの目的趣旨が大いに遂行された開催となった。

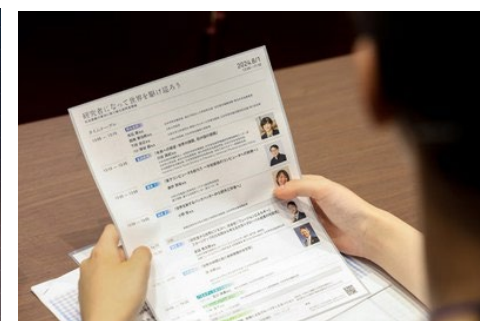
## 2. 令和6年4月～令和6年9月の活動(3/4)

公開シンポジウム ／ ～研究者になって世界を駆け巡ろう～

主催：日本学術会議第三部会、日本学術会議近畿地区会議、大阪大学

日時：令和6年8月1日(木)13:00～17:30

場所：大阪大学中之島センター10階(佐治敬三メモリアルホール)・ハイブリッド開催



### 3. 今後の活動

- 会員・連携会員が参画する委員会・分科会の精査と活動の支援
- 「アクションプラン」の推進に向けた検討
- 「日本学会議のあり方」に関する意見交換
- 「人材育成」に関する検討

# (参考資料A) 分野別委員会下の分科会・小委員会設置状況

## ○分野別委員会下の分科会・小委員会

(複数委員会にまたがる合同分科会については主たる分科会を対象)

| 委員会         | 分科会数 | 小委員会数 |
|-------------|------|-------|
| 環境学委員会      | 6    | 11    |
| 数理学委員会      | 4    | 0     |
| 物理学委員会      | 6    | 0     |
| 地球惑星科学委員会   | 9    | 21    |
| 情報学委員会      | 6    | 2     |
| 化学委員会       | 11   | 0     |
| 総合工学委員会     | 9    | 11    |
| 機械工学委員会     | 7    | 3     |
| 電気電子工学委員会   | 4    | 10    |
| 土木工学・建築学委員会 | 8    | 1     |
| 材料工学委員会     | 5    | 0     |
| 合計          | 75   | 60    |

# (参考資料B) 公開シンポジウム開催(1/2)

「第70回構造工学シンポジウム」(R6.4.13～R6.4.14)

土木工学・建築学委員会

【東京工業大学大岡山キャンパス西9号館】

「第36回環境工学連合講演会」(R6.5.28)

環境学委員会環境科学・環境工学分科会

【日本学術会議講堂(ハイブリッド開催)】

「博士人材のキャリアパス多様化を加速する」(R6.6.11)

化学委員会、化学委員会化学企画分科会

【大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所  
研究棟201号室(ハイブリッド開催)】

「安全工学シンポジウム2024」(R6.6.26～R6.6.28)

総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・  
リスク検討分科会

【日本学術会議講堂及び会議室(5A、6A、6C)(ハイブリッド開催)】

## (参考資料B) 公開シンポジウム開催(2/2)

「第17回情報学シンポジウムー研究データ基盤の確立とその将来展望ー」  
(R6.7.5)

情報学委員会

【日本学術会議講堂(ハイブリッド開催)】

「日本学術会議国際光デー記念シンポジウム～量子技術とレーザー科学の最前線～」(R6.7.25)

総合工学委員会ICO分科会

【日本学術会議講堂及びロビー】

「研究者になって世界を駆け巡ろう～社会課題の解決に取り組む研究者概論～」  
(R6.8.1)

第三部

【大阪大学中之島センター(ハイブリッド開催)】

# 日本学術会議第192回総会 若手アカデミー活動報告

(2024.4-2024.10)





# 第26期若手アカデミー

日本学術会議若手アカデミー（Young Academy of Japan）は、人文・社会科学と自然科学にまたがる多様な分野にわたる45歳未満の研究者で構成

## 26期の体制と活動（2023.12-2026.9）

1. 分野横断的かつ公的な若手研究者の組織としてのシンクタンク活動・発信
2. 日本学術会議の活動や発信への若手研究者視点の反映
3. 具体的な諸問題に取り組む7つの分科会活動



全体委員数 46名  
(連携会員（特任） 2名)

# 7つの分科会

| 分科会名                   | 審議事項                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学術の未来を担う人材育成分科会        | <ul style="list-style-type: none"> <li>学術の次世代を担う若手人材の育成</li> <li>次々世代を担う中学生・高校生・大学生の教育における課題とその解決策</li> </ul>                                                                                             |
| ワーク・ライフ・バランス分科会        | <ul style="list-style-type: none"> <li>ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた現状把握と対策</li> <li>女性研究者への過負荷の現状把握と対策</li> </ul>                                                                                                  |
| 若手主導の異分野融合研究の推進に関する分科会 | <ul style="list-style-type: none"> <li>科学分野間の融合に関する調査・議論</li> <li>新たな学術的成果の表現方法に関する調査・議論</li> </ul>                                                                                                       |
| 国際分科会                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の学術が地球社会において果たすべき役割と国内での活動指針</li> <li>若手アカデミーの国際的活動の推進および連絡調整</li> <li>各研究分野の国際化をめぐる課題</li> <li>科学技術外交、技術移転に関する課題</li> <li>グローバルレベルでの公平な知識やアクセスに関する課題</li> </ul> |
| 未来を拓く学術イノベーション分科会      | <ul style="list-style-type: none"> <li>産官学連携を通じたイノベーション創出の在り方</li> <li>イノベーション・エコシステムの創出</li> <li>イノベーションを通じた地域創生</li> </ul>                                                                              |
| 地域社会とアカデミアの連携に関する分科会   | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会での科学者の役割の可視化と評価</li> <li>地域活性化に資する公共・民間・学術の連携</li> <li>これまでの科学者と地域の連携の検証と今後の連携の展望</li> <li>地域での発展的な研究活動、領域横断的研究</li> </ul>                                     |
| 情報発信分科会                | <ul style="list-style-type: none"> <li>若手アカデミーのホームページ</li> <li>若手アカデミーの情報発信</li> </ul>                                                                                                                    |

第26期若手アカデミー ビジョン・ミッション



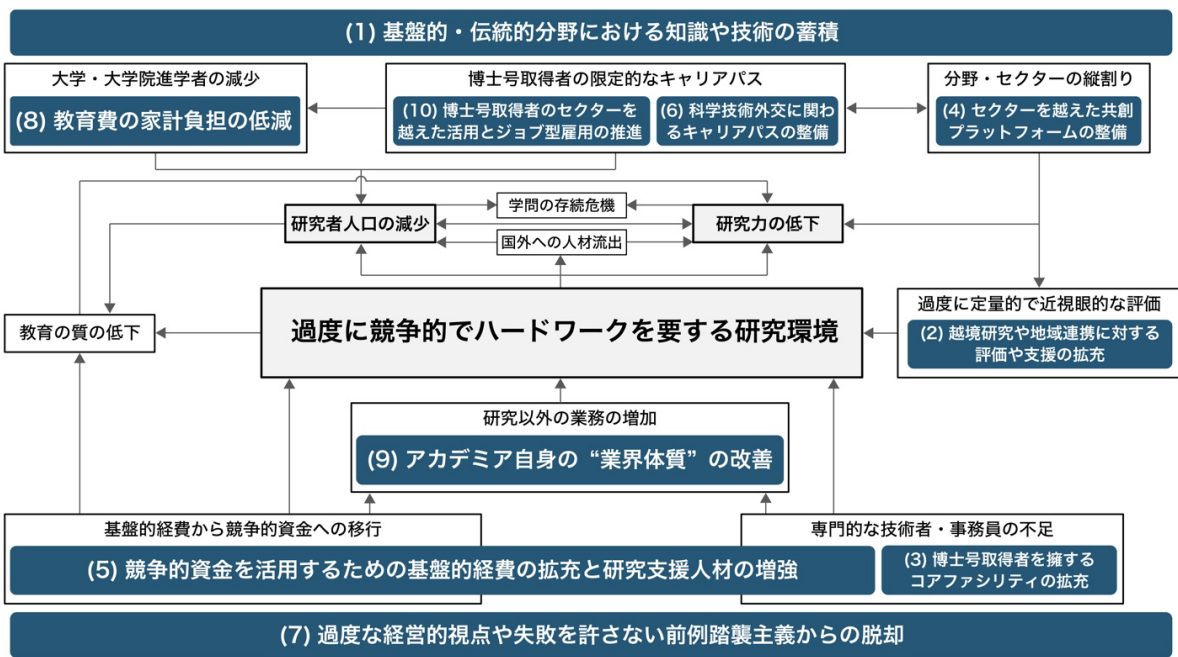
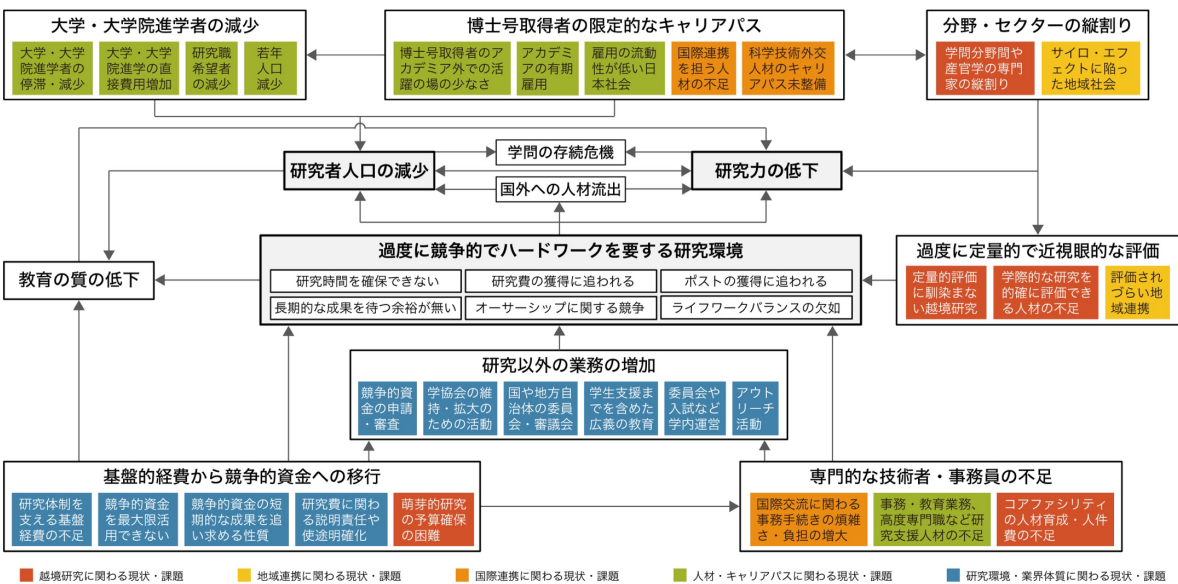
# 20年後の科学・学術と社会を見据えた リモデリング戦略の実行

未来の科学・学術を担う若手研究者の立場から、行政・産業界・市民社会、そして国内外の研究者コミュニティとのさらなる対話・連携を進め、世界や日本が直面する諸問題、また、若手研究者をとりまく諸問題に関する解決策を提示し、実行していく。

# 26期若手アカデミー 活動方針

見解「2040年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき10の課題」に基づき、

- ① 具体的な実現にむけて各種ステークホルダーと議論を進める
- ② Webメディアやシンポジウムを含めた多様なコミュニケーション手段を活用して社会への発信を進める



## 多様な研究人材の育成と未来に関するワークショップ

**参加者：若手アカデミーの有志  
文部科学省の有志  
研究基盤協議会の有志**

### 第1回

- ・開催日：2024年8月7日（水）
- ・会場：京都大学農学部総合館（対面）
- ・参加者：11名

### 第2回

- ・開催日：2024年9月20日（金）
- ・会場：オンライン
- ・参加者：10名

近年、研究力と国際競争力の強化が叫ばれる中で、研究人材を取り巻く環境は大きく変化している。研究者・技術職員・URA等を含む研究人材の育成と未来を考え、課題の解決に向けた具体的な提案を出すことを目指し、意見交換と議論を行った。



今後も継続して実施する。

また若手アカデミーと文科科学省との「科学技術政策に関する意見交換会」も実施予定（第1回：10/4）。



## 『学術の動向』 2024年7月号 特集：学術の担い手の多様化と育成



小野 悠



小川 剛伸



寺田 佐恵子



江端 新吾



大竹 裕香



岩井 紀子

座談会 学術の担い手の多様化と育成

# 学術の担い手の 多様化と育成

|                      |                         |                       |
|----------------------|-------------------------|-----------------------|
| 小野 悠<br>ONO, Haruka  | 小川剛伸<br>OGAWA, Takenobu | 江端新吾<br>EBATA, Shingo |
| 大竹裕香<br>OHTAKE, Yuka | 寺田佐恵子<br>TERADA, Saeko  | 岩井紀子<br>IWAI, Noriko  |

7月号の特集「学術の担い手の多様化と育成」について、さまざまな分野で多彩なご経歴をお持ちの4名の研究者の方にご参加いただき、4月26日に座談会を行いました。日本学術会議若手アカデミーの小野悠代表が司会と取りまとめ役を務めました。それぞれの方の学術や研究との関わりを踏まえて、いろいろな観点から日本の学術の担い手の問題や研究者育成の課題などについて幅広く語り合っていました。座談会には、7月号の編集責任者の岩井紀子『学術の動向』編集副委員長が陪席しました。

# リサーチアドミニストレーション協議会誌『RMAN-J Journal』第2号

## 特集：若手研究者支援

### 日本学術会議若手アカデミーと「10の課題」—今後20年を担う世代として共通言語を紡ぐ—

若手研究者の立場から、URA、技術職員、事務職員などの研究支援人材に対する処遇改善および安定雇用を図るための基盤的経費の確保が必要であることを指摘。また、科学と学術を共に担う立場として、現場で議論し、行動を起こしていくことが重要であり、ONE TEAMとして連携することを提言。

特集 若手研究者支援

日本学術会議若手アカデミーと「10の課題」  
—今後 20 年の科学と社会に向けて共通言語を紡ぐ—  
Ten Recommendations from the Young Academy of Japan  
—Weaving a Common Language for Science and Society in the Next 20 Years—  
小野 悠（豊橋技術科学大学）  
Haruka Ono  
Toyohashi University of Technology / Chair, the Young Academy of Japan

要約：2023 年 9 月に日本学術会議若手アカデミーが発出した見解「2040 年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき 10 の課題」は、我が国の研究環境をめぐる問題の構造と取り組むべき課題を現場の若手研究者が分野を超えてまとめたものである。若手研究者は過度に競争的でハードワークを要する研究環境に置かれ、真に重要な研究課題に取り組んだり、イノベーション創出の鍵となる越境研究や国際連携、地域連携を推進したりすることが難しい状況にある。こうした課題に対して、研究支援人材の処遇を改善し、安定して雇用できる基盤的経費を措置することは、とりわけ研究体制を十分に整えることが難しい若手研究者にとって重要である。大学や研究機関に求められる役割が多様化する中で、科学・学術とともに担う研究者、URA、技術職員、事務職員が互いの役割を再定義し共通言語を紡いでいく必要がある。この共通の理解とコミュニケーションが、より良い研究環境を作り、科学と社会を発展させる鍵となるだろう。

Abstract In September 2023, the Young Academy of Japan, under the Science Council of Japan, issued an advisory opinion titled “Remodeling Science and Society for the Next 20 Years: Ten Recommendations from the Young Academy of Japan.” This document, authored by young researchers from various fields, outlines the challenges facing Japan’s research environment and identifies the issues that need to be addressed.

Currently, young researchers operate in an overly competitive and demanding environment, making it difficult for them to focus on truly important research questions. This environment also hampers the promo-

tion of interdisciplinary research, international collaboration, and regional collaboration—all essential for fostering innovation.

To address these challenges, it is crucial to enhance fundamental funding to improve the conditions for research support personnel and provide stable employment, particularly for young researchers who struggle to establish a sufficient research system. As universities and research institutes face increasingly diverse roles, it is essential for researchers, University Research Administrators (URAs), technical and administrative staff, and others involved in science and academia to start by redefining each other’s roles and weaving a common language. This shared understanding and communication will be key to creating a better research environment and advancing science and society over the next 20 years.

キーワード：研究支援人材（research support personnel）、若手研究者（young researchers）、10 の課題（Ten Recommendations）、若手アカデミー（Young Academy of Japan）

#### 1. はじめに

2023 年 8 月に東京たま未来メッセで開催された RA 協議会第 9 回年次大会において、若手アカデミーが「学術会議若手アカデミーと考えるリサーチ・アドミニストレーションの未来」と題するネットワーキングセッションを開催した。若手アカデミーが取りまとめていた見解「2040 年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべ



## 公開シンポジウム「若手×多様性×イノベーション を地方から話すコロキウム」の開催

主催：若手アカデミー

若手を中心とした多様なパネリストによって、地域社会における科学者の役割を広範に検討し、科学者と地域の多様な主体との連携のあり方を探求した。

参加人数：現地約40名・オンライン約60名（計約100名）



日時：令和6年9月4日（水）  
場所：Fukuoka Growth Nextイベントスペース（福岡市中央区大名2-6-11）（および、オンライン [ハイブリッド開催]）

公開シンポジウム

若手×多様性×イノベーションを  
地方から話すコロキウム

**開催趣旨**

我が国の地方部は、人口減少・少子高齢化、産業構造の転換、多様な主体の参入など、社会経済状況が大きく変化する一方、科学者が貢献できる事項は多岐に亘る。同時に、科学者もまた、地域の取組み、社会文化から多くを学ぶべきである。そこで、本公開シンポジウムでは、若手を中心とした多様なパネリストによって、地域社会における科学者の役割を広く検討し、科学者と地域の多様な主体との連携のあり方を探求する。

加えて、地域社会とアカデミアの連携の促進を目指す。地方における高等教育機関の充実や、若者の就業・新規事業創出について、多様な視点から示唆を与えることを目指す。

**開催日時** 2024 9/4 Wed 16:00~18:30

**参加費** 一般参加可 参加費 無料

**場所** Fukuoka Growth Nextイベントスペース 福岡市中央区大名2-6-11

**参加方法** 現地参加および オンライン [ハイブリッド開催]

**参加登録**

下記 URL もしくは QR コードからお申し込みください  
参加情報はメールにて送付いたします

<https://forms.gle/gRdfVLDuQsCjtRGK7>



主 催：日本学術会議 若手アカデミー  
問い合わせ先

九州大学都市研究センター W2号館1001号室  
〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744番地  
tel: 092-802-3568  
mail: s.takeda@urban-institute.kyushu-u.ac.jp

# 『学術の動向』 2024年10月号

## 特集：産学連携活動におけるスタートアップ創出の位置づけ

### 若手アカデミーが考えるスタートアップ — 学術3.0へ向けて

「知の応用」による総合知の実現と、若手博士人材のキャリアパスの発展においてスタートアップが果たす役割について若手の立場から寄稿を実施した。

特別  
寄稿

産学連携活動におけるスタートアップ創出の位置づけ——産学連携学会におけるその目的と取組み

## 若手アカデミーが考える スタートアップ ——学術3.0へ向けて

九州大学都市研究センター准教授  
武田秀太郎  
TAKEDA, Shutaro

#### 学術は限界に近づいているか？

2023年1月、nature誌に1本の論文が掲載された。"Papers and patents are becoming less disruptive over time"と第されたこの論文<sup>1</sup> (図1) は、1945年以降の4,500万本の論文を解析することで、「発表される成果が先行研究からどれだけ乖離したか」を表す指数があらゆる学術分野において半世紀

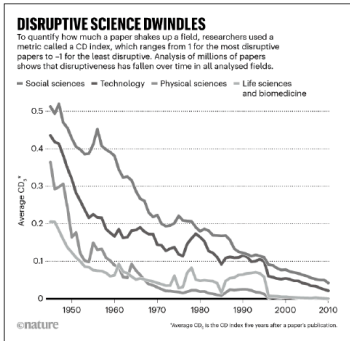


図1 学術研究の革新性の推移<sup>2</sup>

低下していることを明らかにした。これは現代の学術が、学際融合等への取り組みにも関わらず、新しい領域を切り拓くより既存分野を漸進的に前進させる傾向が強いことを浮き彫りにしたものである。

一方で、それを支える研究費は増大の一途を辿る。アメリカ科学振興協会 (AAAS) は米国における研究開発費が年間100兆円を越えたと推計しているが、これはインフレ調整を行った貨幣価値であっても1950年の20倍に上る金額である<sup>3</sup>。結果として、エネルギー分野では既に論文1本を生み出すために投じられる公的資金が平均1 million USDを超過しており、かつ公的資金投入から出版までにかかる時間も平均10年に達していることが報告されている<sup>4</sup>。

この「一部の分野において研究費が増大を続け、論文1本あたりに必要な研究費も膨張しながら、その学術インパクトは減少している」という事実は、一つの不都合な



## サイエンスカフェ「せんせいといっしょに自由研究～カガクから 覗く(のぞく)家族と宇宙」の開催

- ・会場：日本学術会議庁舎
- ・参加人数：77名（1日目29名、2日目48名）

◆ 8月7日（水）13：30～14：30

**いろんな生き物のいろんな子育て・家族と法律～訴状を書いてみよう～**

講師 木村 草太（東京都立大学法学政治学研究科教授）

石川 麻乃（東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授）



◆ 8月8日（木）13：30～14：30

**宇宙を探索してみよう・宇宙法の話～宇宙環境の保護と法律～**

講師 癸生川 陽子（東京工業大学理学院地球惑星科学系准教授）

大西 楠テア（東京大学法学政治学研究科准教授）



## エッセンスフォーラム2024への参加 「研究知の社会実装 | Knowledge to Knowledge Capital」

- ・開催日：2024年9月25日（水）
- ・会場：東京ミッドタウン八重洲イノベーションフィールド
- ・参加人数：1467名（のべ2392名）
- ・主催：株式会社エッセンス



見解「10の課題」をもとに

- ・ 研究者がそのポテンシャルを遺憾なく発揮し、高い成果を出すために、どのような環境設定がなし得るのか
  - ・ 研究知が生かされないという社会の矛盾を解くために、どのような構造的な変革を起こすことができるのか
- について行政と企業、民間と議論。





## Global Young Academy 総会への参加

### “Transformative and Inclusive Science for a Sustainable Future”

- ・ 開催日：2024年5月5日（日）～10日（金）
  - ・ 会場：米国科学アカデミー（アメリカ合衆国ワシントンD.C.）
  - ・ 参加者：70カ国以上から若手研究者が結集
  - ・ 参加：小野 悠
- 
- ・ 気候変動や戦争、紛争などの社会課題の中における持続可能で包摂的な未来に向けた競争と協調
  - ・ 未来に向けたリーダーシップや若手科学者育成プログラムの成果と課題
  - ・ 革新的・変革的な科学を確立するためのマルチステークホルダー・パートナーシップ
- などについて議論。





## STSフォーラムへの参加

- ・開催日：2024年10月6日（日）～8日（火）
- ・開催地：京都
- ・参加：門田 有希（岡山大准教授、国際分科会幹事）



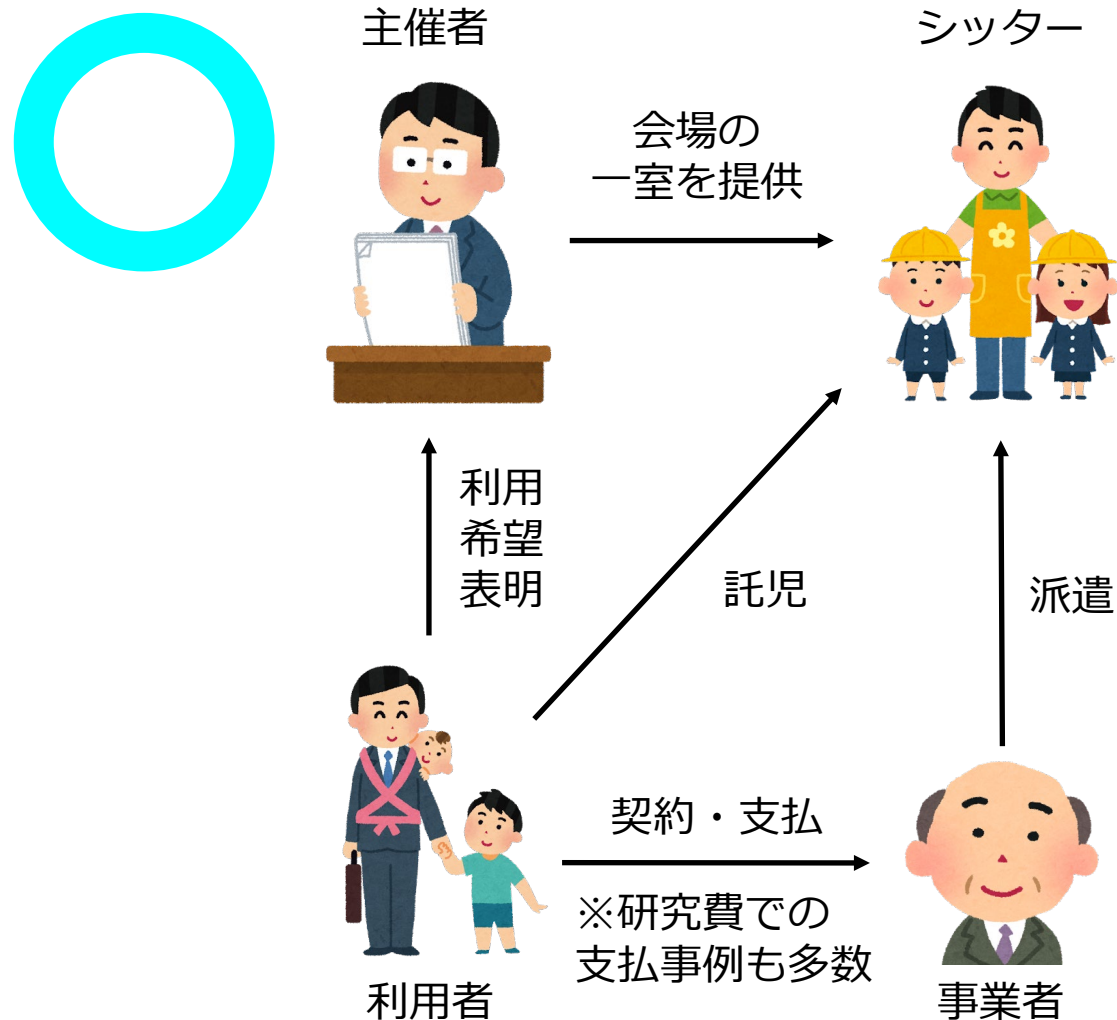


# ワークライフバランスにかかるベストプラクティス事例 の情報収集と共有

## 集会での託児所の手配

○主催者は部屋を用意するだけ  
(ローカルな事業者のアタリをつけてい  
ると嬉しい)

○利用者は主催者に部屋の提供を依頼、  
事業者にはシッター派遣を依頼



## 今後の活動予定

# 公開シンポジウム「地域課題解決に挑む実践型アカデミー創設に向けて－那須地域から始まる未来実装学アカデミー」の開催

- ・開催日：2024年10月26日（土）14：00～17：00
- ・会場：那須ハイランドパーク イベント館（ハイブリッド）
- ・主催：若手アカデミー、那須会議実行委員会

見解「10の課題」のひとつ「セクターを越えた共創プラットフォームの整備」の実装に向けて、未来実装人材の育成とコミュニティづくりを実践する「未来実装学」と、その確立を目指す「未来実装学アカデミー」の創設に向けた議論を行う。

### 地域課題解決に挑む 実践型アカデミー創設に向けて

那須地域から始まる未来実装学アカデミー

#### 公開シンポジウム

2024 **10/26**  
Sat. 14:00-17:00  
那須ハイランドパーク イベント館  
栃木県那須郡那須町高久3-3-75  
ハイブリッド開催

本シンポジウムは、未来実装人材の育成とコミュニティづくりを実現する「未来実装学」と、その確立のための知見を構築する「未来実装学アカデミー」の創設に向けて議論を行います。未来実装学のスタート地点となる那須地域には、国内最大規模のリビングラボがあり、未来社会の実現に向けたソリューションの共創、実証実験、社会実装の場が提供されています。ここには各領域を越境するインタープレナーたちが集い、多様な取り組みが展開されています。自然と地域が共生する広大な実証フィールドを舞台に、地域課題解決の最前線に挑む実践型アカデミーの創設を目指しています。未来社会の実現に向けた具体的なアプローチを共有し、新たな共創プラットフォームの構築に向けた第一歩を踏み出します。

申込方法

こちらより  
ご登録ください▶

申込締切

現地参加10月20日(日)  
オンライン参加10月24日(木)

主 催

日本学術会議若手アカデミー  
那須会議実行委員会

#### PROGRAM

司会：藤岡 沙都子 慶應義塾大学理工学部応用化学科准教授

14:00 開会挨拶・趣旨説明  
小野 悠 豊橋技術科学大学大学院工学研究科准教授

14:10 来賓挨拶

14:20 基調講演「『課題解決先進国』小宮山にとってそれはプラチナ社会の実装」  
小宮山 宏 東三亜総合研究所理事長

14:40 ミッション・ステートメント「那須地域から始まる未来実装学アカデミー」  
南澤 孝太 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授  
高瀬 堅吉 中央大学大学院文学研究科心理学専攻教授

15:00 パネルディスカッション「未来実装学アカデミーの射程」  
パネリスト：小宮山 宏  
大島 彰 那須県原市企画部企画政策課企画政策担当グループリーダー  
神原 咲子 神奈川看護大学看護学部教授  
留目 真伸 SUNDRED株式会社取締役CEO  
林 みゆき 那須県原市議会議員  
山田 メグミ 株式会社スタイル取締役  
モデレータ：吉田 直樹 一般社団法人Japan Innovation Network フェロー、一般社団法人プラチナ構想ネットワーク社会実装推進委員

16:00 パネルディスカッション「地域課題解決の最前線に挑み、未来を切り拓く」  
パネリスト：磯 翔 一般社団法人AppleBase理事長  
印南 清四郎 那須県原市企画部企画政策課企画政策担当主査  
田家 南奈 A-1 TOYOTA  
武田 秀太郎 九州大学都市研究センター准教授  
八木澤 玲玖 那須県観光振興課課長  
モデレータ：近藤 康久 総合地球環境学研究所基礎研究部教授

16:50 閉会挨拶 南澤 孝太

## 今後の活動予定

# 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2024 「持続可能なイノベーション創出のためのエコシステム～ 2040 年の科学・学術と社会を見据えて～」の開催

- ・主催：日本学術会議講堂
- ・開催日：2025年2月3日（月）13:00-17:30 海外から7名の若手登壇者をお迎えします
- ・会場：日本学術会議講堂及びZOOMウェビナー



カナダ



オーストラリア



中国



韓国



インド



UNESCO



シンガポール

2月3日（節分）の午後、ぜひみなさまご予定ください

**Opening Ceremony**

|             |                 |                                                                                                                                                                                               |
|-------------|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 13:00-13:05 | Opening Remarks | <b>MITSUISHI Mamoru</b> , President, Science Council of Japan                                                                                                                                 |
| 13:05-13:10 | Guest Speech    | tbc                                                                                                                                                                                           |
| 13:10-13:15 | Introduction    | <b>KANO Kei</b> , Professor, Faculty of Education, Shiga University, Chair, International Conference on Science and Technology for Sustainability 2024 Subcommittee, Science Council of Japan |

**Keynote Speech**

|             |                |                                                                                                                                                              |
|-------------|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 13:15-13:40 | Keynote Speech | <b>ONO Haruka</b> , Associate Professor, Department of Architecture and Civil Engineering, Toyohashi University of Technology, Chair, Young Academy of Japan |
| 13:40-14:05 | Keynote Speech | <b>Audrey Moores</b> , Professor, Department of Chemistry, McGill University                                                                                 |
| 14:05-14:30 | Keynote Speech | <b>Fabien Medvecky</b> , Associate Professor, Australian National University                                                                                 |
| 14:30-14:55 | Keynote Speech | <b>Kun Tang</b> , Associate Professor, Tsinghua University Vanke School of Public Health                                                                     |

**Panel Discussion**

|             |           |                                                                                                                                                        |
|-------------|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 15:15-17:25 | Moderator | <b>SHINEHA Ryuma</b> , Associate Professor, Research Center on Ethical, Legal, and Social Issues, Osaka University, Vice-Chair, Young Academy of Japan |
|             | Panelist  | <b>So Yeon Leem</b> , Faculty Member, College of General Education, Dong-A University                                                                  |
|             | Panelist  | <b>Chandra Shekhar Sharma</b> , Professor, Department of Chemical Engineering, Indian Institute of Technology Hyderabad                                |
|             | Panelist  | <b>Ai Sugiura</b> , Programme Specialist for Natural Sciences of UNESCO Beijing Office                                                                 |
|             | Panelist  | <b>Sulfikar Amir</b> , Associate Prof. Nanyang Technological University                                                                                |
|             | Panelist  | <b>YOSHIKAWA Mayu</b> , Senior Advisor, ARCH Venture Partners                                                                                          |

**Closing Ceremony**

|             |                 |                                                                                                      |
|-------------|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 17:25-17:30 | Closing Remarks | <b>HIBIYA Junko</b> , Vice-President in charge of International Activities, Science Council of Japan |
|-------------|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|



# どうぞ、よろしくお願いいたします。

